



道づくりと町の発展

町史編さん協力員 伏見 俊一(現代担当)

私は、現代編の主に「道路の整備と高速化」を担当しました。現在の町内の道路網は、町道221路線、県道1路線、国道3路線に、東北縦貫自動車道と日本海沿岸東北自動車道で構成されています。明治以降は、盛岡から大館に至る「鹿角街道」から毛馬内で分岐し、坂梨峠を越えて平川市碓ヶ関に至る「濁川街道」が主な道路でした。この濁川街道が、その後県道から国道282号に昇格して、町内道路網の南北軸になりました。

同じく東西軸は、昭和43年(1968)に大館～小坂間が開通した主要地方道大館十和田湖線で、昭和26年(1951)の着工から完成までの長い道のりは平坦ではありませんでした。「カンテラ会」の逸話(町史編さん室だより第1号)にもあるように、関係者の並々ならぬ熱意によって成就したものです。開通式は小坂町民会館で行われ、大館市までパレードして、悲願であった開通を多くの町民・市民が喜びを分かち合ったとの記録が残っています。

昭和61年(1986)には、小坂～発荷峠間も完成し、大館～発荷峠間総延長42kmが全線開通しました。その後、平成2年(1990)の小坂インターチェンジ開通前後には、館平～内の岱間の狭く急坂であった2号の坂、山手の坂、あけぼのの坂が、次々に広く緩やかに整備されました。

町中心部の町道整備は、都市計画街路整備を中心に行われ、昭和53年(1978)に永楽町線の一部、翌年に中央線の藤倉～古苦竹間が完成しました。また、昭和57年(1982)には向陽線が全線完成しましたが、これら街路網の整備は、町並み形成上大きな役割を果たしていきました。

一方、東北縦貫自動車道十和田IC～碓ヶ関IC間の建設事業は、昭和47年(1972)の路線発表から全国でもまれな路線変更運動を経て、昭和61年(1986)の完成まで15年に及びました。また、インターチェンジの増設運動は、路線変更がやっと決定した昭和56年(1981)に満を持して一気に動き出し、昭和61年の国幹審で決定しました。

この苦節の15年間は、当時の木村實町長を先頭に行政、議会、町民が一丸となって運動を展開したことが国・県・道路公団を動かし、現在の町内高速道路網を作り出しました。このあふれるようなエネルギーがなければ、現在の町の形も違ったものになっていたかもしれませんし、まして増設インターチェンジはできなかったかもしれません。その小坂ICは平成2年(1990)に、町民の万感の思いのもと開通しました。その後、日浴道小坂北ICと小坂ジャンクションが平成25年(2013)に同時開通し、東北縦貫自動車道と日本海沿岸東北自動車道が接続されて、町内における高速道路網が完結しました。

執筆して感じたことは、我々が恩恵にあずかっている道路網は、与えられたものではなく、町民が自ら勝ち取ってきたものだということです。昭和40年代(1965)から平成の時代は、高度成長が終えんして大きく変わる時期でした。高速道路の整備に合わせて町は観光立町に舵(かじ)を切り、康楽館の復興と鉱山事務所の復原、明治百年通りの整備と次々に施策を繰り出し、まさに町全体が鉱山依存から脱却すべく躍動している時代でもありました。そうした中において、道路は新しい時代を切り開き、成長させていく原動力になっていったのではないのでしょうか。

小坂町消防出初め式

- 開催日 1月4日(土)
- 屋内行事 9時45分～(セパーム)
- 観閲式・分列行進・餅まき 11時20分～(康楽館前)



※当日の正午頃まで、明治百年通りは一部通行止めとなります。車で来場する方は、鉱山事務所側から駐車場にお入りください。

■お問い合わせ先 町民課町民生活班(TEL29-3928)

水道管の凍結に注意!!

《凍結対策はお早めに》

水道管の凍結による漏水は、修理代がかかるばかりではなく、近隣世帯の水圧低下などを招くこともあります。朝起きて水が出ないなど凍結の恐れがあるときは、すぐに「町指定水道工事指定店」に連絡してください。

※水道工事指定店は小坂町ホームページでご覧になれます。

■お問い合わせ先 建設課水道班(TEL29-3911)

交流センター・セパームの館内清掃のお知らせ

年末年始の閉館は12月29日(日)から1月3日(金)までとなりますが、それに先立ちまして、**12月26日(木)から28日(土)まで館内清掃並びにワックスがけ**を行うため、セパームの利用はできなくなりますのでご了承ください。

保育所給食食材の「放射性物質検査結果」をお知らせします

《検査日 11月20日》

小坂マリア園(じゃがいも)

◆検査結果→測定下限値未滿

◆測定下限値は10Bq/kgです。

◆お問い合わせ先 教育委員会総務班(TEL29-2342)

